

AJWCEF

NEWSLETTER 2012年 10月 Vol. 6

AJWCEF からのご挨拶

皆様におかれましては、平素よりAJWCEFの活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

AJWCEFが拠点としておりますクィーンズランド州をはじめとするオーストラリアの東海岸では、2010年の前半までエルニーニョ現象の気候への影響で激しい干ばつに見舞われておりました。それが一変し2010年後半からラニーニャの影響で多雨となり、2011年1月にはブリスベンを中心としてクィーンズランド各地で大洪水が起きました。このときの洪水の総面積はドイツとフランスの面積を合わせた広さに匹敵するといわれております。そして2013年には再びラニーニャの影響で干ばつになるのではないかと予想されております。近年、地球の気候変動や温暖化が危惧され始め、その影響により各地で極端な天候が起きているのではないかと推測されています。

この影響は野生動物にも及んでいます。先に触れました2011年1月の大洪水では、多くの野生動物が命を落したり生息地を破壊されたりいたしました。その一方で、カエルのように洪水により自らの生息地を広げ、その数が急増した動物も見られます。さらに、温暖化による影響で巨大化したとされる非常に強いサイクロン“ヤッシー”が同年2月にクィーンズランド州北部を襲い、その影響でその地域を生息地としている絶滅危惧種のカソワリやマホガニーグライダーなどが大変な打撃を受けました。クィーンズランド州政府は多くのボランティアの協力を得て、この動物たちを救うため大規模なフードステーションや巣箱の設置を行いました。また、気温の上昇によりこの地域に生息するクロコダイルの生息地が南下し、今までこの種の動物が見られなかった地域の生態系への影響や、人間社会の安全に対し新たな対策が必要になってまいりました。

今われわれが直面している状況は、ただ環境や野生動物を保護し、人間社会との共存を模索するのみでなく、もしかすると起こり始めているかもしれない地球規模での未知の気候変動にも対処する方法を考える必要があります。AJWCEFでは皆様と一緒に“我々に何ができるのか”を考えていきたいと思っております。今後とも皆様のご理解と支援をお願い申し上げます。

オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男

オーストラリア連邦政府と豪日交流基金はAJWCEFの新しい教育企画、オーストラリア日本間の環境及び野生動物保護に関する中継教育に対して後援しています。



Australian Government



豪日交流基金
Australia-Japan FOUNDATION

2012年8月トレーニングコース（初級）レポート

首都大学東京 都市環境学部 自然文化
ツーリズムコース 4年 新井 風音

参加して本当に良かった。ボランティアや職員の方や研究者や獣医やレンジャーさんやAJWCEFのスタッフの方など、本当にいろいろな人が、それぞれいろいろな葛藤や想いや悩みを抱きながらも、一生懸命、野生動物や自然保護に携わっていることがひしひしと伝わった。そして、そういった生の情報を見た自分も、自分のことや自然保護について深く考えるいい機会となった。また、2週間だけではあるが、海外で初めて会った仲間たちと協力して課題や自炊をして暮らすという「共同生活」もとても役に立った。社会で働くうえで大切なことだと思う。

最後に、参加しようか悩んでいるあなたへ。ぜひ思い切って参加してみてください。何でもやってみなければわかりません。

私がこんなに参加を進めるのには理由があります。なぜなら、このコースに参加して「一歩踏み出す勇気」を得た気がするからです。

私は観光を学んでいるので、獣医でも生命科学でも農学でもない私が参加するのは場違いなのではないのかと最初はためらいましたが、自然や動物が好きだったので、学科など気にせずに思い切って参加しましたが、参加して正解でした。ぜひ自分の五感で感じてみてください。何か感じるものや得るものがあると思います。

RYO

今回、私はAJWCEFのトレーニングコースに参加をして、日本ではなかなか体験できないことをすることや、日本とオーストラリアの違いを感じることで、その他多くの経験やあまり考えることのないことについて考えることができたと思う。

特に野生動物の保護・保全に対する考えや活動は日本と比べて活発



に行われているように思えた。今回、実習を行った David Fleay Wildlife Park と Moggill Koala Hospital では何を中心に考え、活動するかによって保護活動の内容が違うものになると感じた。例えば David Fleay では怪我をした動物を捕獲飼育し一般の人に対して野生動物についての知識を持ってもらえるように教育の役割を持ち、そこにいる動物を自然に近い状態で見せているのに対し、Koala Hospital では連れてこられたコアアラを自然に返すことを中心としていることから、一般の人に対して動物を見せることはほとんどなく、また、自然に返すことのできない個体に対しては安楽死といった処置を考えなければいけない。それぞれ異なる考え方をしている異なる活動をしているけれど、それらのどれが一番重要というよりかはどれもが大切に欠かせない重要な活動だと感じた。

動物の保護にも多種多様のやり方があることを知ったこと以外にも英語（語学）の必要性や観光とは違うオーストラリアでの生活など、現地で生活するというのもまた自分にとっては日本の環境とは全く異なる環境で新鮮で勝手が分からないことも多かったが色々な国と交流するには大切になると思うことが多く、もっと海外に出てみたいと思えるようになったと思う。

この他の参加者の体験談もAJWCEFのホームページに掲載されます。是非そちらの方もご覧下さい。

クイーンズランド コウモリ保護・救助協会

Bat Conservation & Rescue Qld inc.

この協会は AJWCEF の支援・協力団体の一つで野生コウモリの保護を行っています。近年、オオコウモリが感染に関連すると考えられるヘンドラウイルスが注目されており、オオコウモリを排除すべきと考える人々が増えるなど、オオコウモリのおかれる環境はますます厳しいものとなっています。こうした状況下において彼らの保護活動は、コウモリと生態系の保護に大きな役割を果たしています。

AJWCEF のトレーニングコースなどでは、コウモリの孤児を育てるケアラー訪問や施設の見学を行っています。



会長 ルイーズ サンダース

クイーンズランド コウモリ保護・救助協会は、クイーンズランド州で最大のコウモリに特化した救助および介護団体です。私たちのボランティアたちは小型コウモリと大型コウモリの全てのコウモリの救助とケアに献身しています。私たちは 2007 年にオオコウモリと小型コウモリが救助を必要としていたため組織されました。しかし私たちは救助とケアをしているだけではありません。私たちは人々の教育にも力を入れています。その教育によって、この必要不可欠な野生動物がより良く評価され、恐怖や誤解から生じる更なる迫害からより一層保護されるよう改善を促しています。私たちは継続して有刺鉄線や裏庭の果樹につけられた網などの損傷の原因となっている問題に取り組み、同時に地方自治体、州または連邦政府レベルでの改善を求める運動を行っています。

コウモリたちは美しい動物です。あなたもそう思ってくださいますように。なぜなら、コウモリには愛すべきところがたくさんあるからです。

『助けを必要としているオーストラリアのオオコウモリたち』

副会長 デニス ウェイド

近年、オーストラリアのオオコウモリに関して否定的な報道がよくあります。今日の短絡的で利己的なメディアにおいては、私たちの固有の森林における授粉媒介者（オオコウモリ）の真実は殆ど明るみに出ないのです。固有種として、オオコウモリは此処にいるべきもので、私たちの環境において果たすべき重要な役割を持っています。彼らはその役割を約3500万年に渡って絶え間なく続けてきましたが、それに対して人間はますます不寛容な態度をとっています。

オオコウモリはオーストラリアの固有の森林における唯一の夜行性で長距離の授粉媒介者かつ種子分散者であり、計り知れないほどに森林の健康と多様性に貢献しています。科学的研究によって重要な堅木の種が花蜜の大部分を真夜中以降に出し、夜明け前に花粉受容体を閉鎖させてしまうと分かりました。ですから、森は長距離の授粉と種子分散に関してオオコウモリに大いに依存しているのです。この長距離の授粉媒介者なしには、オーストラリアの森林の健康は低下し、地球上の他の森林では見られない大規模の交雑をする能力、またはそれによる気候変動に対応する能力を失ってしまうことになるでしょう。またオオコウモリなしには、現存する森林の生物多様性は危うくなり、健康が損なわれ、シロアリなどによる被害をもっと受けやすくなるでしょう。河岸の種も種の分散においてオオコウモリに依存しており、またそれによって生えてくる木々が土壌の安定性の維持を助けます。オオコウモリが

提供している必要不可欠な役割は他の動物には出来ないことであり、金銭的な観点で見れば、私たちの経済におけるその価値は計り知れないものです。

多くの方がオオコウモリは大発生していると思っていますが、決してそうではありません。オオコウモリは食糧が豊富な場所に集まります。冬にクイーンズランド州の多くの地域で大量のオオコウモリを見る理由は、その時期にクイーンズランド州東南部でこの国の他のどの地域よりも多くの開花する樹種があるからなのです。それで地域的な個体数が増加し、コウモリの季節的な数の変動に繋がっているのです。涼しい季節には、コウモリたちはビクトリア州やニューサウスウェルズ州から（クイーンズランド州に）この花蜜の恩恵を得ようとやってきます。開花期が終わってしまえば多くはまたそれら南の州に帰っていきます。

オオコウモリは繁殖速度が遅く、生後2、3年の頃に性成熟に達した後、毎年一子をもうけます。これは、天災や人災から生息数が回復するのに時間が掛かることを意味します。2007年と2010年には、通常の季節の開花が上手くいかず、オオコウモリは食糧不足に直面し、結果としてオーストラリアの東海岸沿いで何千頭も餓死してしまいました。

人間は海岸沿いの湿地帯や昔ながらのオオコウモリの生息地の土地開発を続けており、クイーンズランド州に生息する4種あるオオコウモリのうち2種は既に連邦政府によって危急種として登録されています。また、州や連邦政府が対応要請を無視し種の絶滅を加速させるような不適切な管理運営を行う中、ハイガシラオオコウモリ（Grey-headed flying-foxes）は2050年までに絶滅すると予測されています。

オオコウモリの生息数は、違法な銃撃、コロニーの迫害、生息地の破壊や農作物保護のための致死的方法の再導入によって益々追いつめられています。ハイガシラオオコウモリの個体数は連邦政府レベルで危急種であるにも関わらず過去10年で3分の1も減少し、おそらく2012年10月にはクイーンズランド州ではなおも合法的に銃撃が許可されるのです。ニューサウスウェルズ州では、何年にも渡って許可の下にコウモリを銃撃しており、悲しいことにこの状況は継続されるようです。

2008年、動物福祉諮問委員会によりオオコウモリの銃撃は残虐であり非人道的であると証明されました。当時の政府はこの独立機関の所見を受け入れ、やっとコウモリは銃撃からの短い休息を享受しました。しかし、果樹栽培業者からの圧力下、動物福祉論評は断念され、新しく選出された政府は法律の変更を行いオオコウモリは再び政府の標的となっているのです。コロニーを追い払う条件はまた緩和され、地方自治体は繁殖状況に関わらずコロニーを追い払うという前例のない権力が与えられ得るのです。これは、妊娠している個体や扶養されている子供のオオコウモリが住む母子コロニーすら攻撃を受けたり強制的に除去することが許されることを意味するのです。政府は非致死的ないわゆる「被害軽減許可」と呼んでいますが、真実はこうです。もし母親オオコウモリが強制的に別の地域に移動されれば、多くの扶養されている若いオオコウモリは死んでしまいます。

クイーンズランド州環境大臣はコウモリの管理に対してバランスのとれた保守的な姿勢を支持しているにも関わらず、真実は現実から程遠い状態なのです。猟銃は区別せず、撃たれたコウモリのうちたった8%しか即死しないことが広く認められています。残りの92%は長引く痛みを伴う残酷な死を経験することになり、また無防備な赤ちゃんコウモリは飢餓、脱水、蛆虫、カラスの犠牲になります。射撃に変わる方法がありますが、その方法にも問題はあるものの、克服できない問題ではないのです。

減少するオオコウモリの生息数は既に、季節的な飢餓、極端な気候現象、有刺鉄線、椰子の木やネットに絡まれること、犬による攻撃、感電、生息地の破壊、人間の無知と迫害、そして天敵の攻撃によってかなり減少します。継続的な哺乳類の絶滅、気候変動のこの時代では、私たちはかつてない程オオコウモリを必要としており、国民や官公庁の人々に彼らの価値を理解してもらう必要があります。オオコウモリは病気の前兆ではありません。実は触らなければ、全く恐れることはないのです。彼らは3歳児の知能を有すると言われていて、彼らは私たちの保護と思いやりを必要とし、またそれを受けるに値する絶対不可欠な感覚力のある固有の哺乳類なのです。

猟期はオオコウモリの出産シーズンに一致し、予定通りに果樹栽培業者のための実施規則がまもなく採用されます。赤ちゃんたちは撃たれるか、強打されるか、首をはねられるか、もしくはお母さんオオコウモリが無事に戻って来れなかった後にコロニーに残され無残にも死んでしまうでしょう。これはお母さんと赤ちゃんたちに対する許し難い故意の残虐行為です。今すぐ州もしくは連邦政府の議員に手紙を書いて私たちは黙ってこの惨事が展開するのを傍観するつもりはないと伝えてください。政府公認の残虐行為は決して認められるものではないというメッセージを政府は、はっきりと聞く必要があるのです。



(写真提供：クイーンズランド コウモリ保護・救助協会)

オオコウモリの赤ちゃん フランシス 生後7週目
フランシスのような赤ちゃんたちが
オオコウモリの苦しみと福祉に対する実利的な無関心の本当の犠牲者となるでしょう。

AJWCEF はこのような草の根活動を支援しています！
今後もニュースレターにて AJWCEF が支援・協力する野生保護団体の活動を
紹介していきます！お楽しみに！

活動報告

2012年4月から2012年10月まで

2012年度オーストラリア野生動物保護セミナー

1. 8月22日(水) 日本獣医学生協会
第2回 World & I
『Unique Australian Animals』
『Veterinarians in Wildlife Protection』 AJWCEF 理事長 水野哲男

インターネット中継教育(パイロットスタディー)

1. 岐阜県可児市をクイーンズランド州 レッドランド市 クリーブランド州立高校と中継で結び、日本の自然、伝統的生活、環境保護活動などを日本語で紹介する中継教育を10回実施。
2. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設と岐阜県可児市にある可児工業高校を中継で結びオーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する教育活動を10回実施。

上記の中継教育は、オーストラリア連邦政府及び豪日交流基金の後援事業で、クリーブランド高校と可児工業高校をモデル校として実施しました。

野生動物保護スタディーツアー

1. プロフェッショナルスタディーツアー (2012年6月)
2. 日本獣医生命科学大学スタディーツアー (2012年9月)

野生動物保護トレーニングコース

1. 初級トレーニングコース (2012年8月)

事業

1. ユーカリ植林事業
(モギルコアラ病院、プレンバイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEFでの共同事業継続中)
2. オーストラリア日本研究交流事業
(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレイ野生動物公園など)

イベント情報

●AJWCEF 2012 オーストラリア野生動物保護セミナー●

11月2日(金) 午後6時～午後8時: 麻布大学(神奈川県相模原市)

セミナートピック:

オーストラリア野生動物の現状と保護(ロックワラビー、ヒクイドリ、大コウモリなど)

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

オーストラリア野生動物保護トレーニングコース参加報告



**11月3日（土）、4日（日）午前10時—午後3時：日本獣医生命科学大学
（東京都武蔵野市）大学祭**

11月3日（土）

ポスター展示終日

10時—11時 野生動物保護フィルム上映

11時—12時 オーストラリア野生動物保護の現状（コアラ、ウォンバットなど）

13時—14時

オーストラリア日本野生動物保護教育財団の活動と野生動物保護トレーニングコース説明会

14時—15時 オーストラリア野生動物保護トレーニングコース、スタディーツアー参加報告

11月4日（日）

ポスター展示終日

10時—11時 野生動物保護フィルム上映

11時—12時 オーストラリア野生動物保護の現状（ロックワラビー、ヒクイドリ、大コウモリ）

13時—14時

オーストラリア日本野生動物保護教育財団の活動と野生動物保護トレーニングコース説明会

14時—15時 オーストラリア野生動物保護トレーニングコース、スタディーツアー参加報告

11月18日（日）午前11時—午後2時：帯広畜産大学（北海道帯広市）

セミナートピック：

オーストラリア野生動物の現状と保護（ロックワラビー、ヒクイドリ、大コウモリなど）

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

オーストラリア野生動物保護トレーニングコース参加報告

11月19日（月）午後5時—午後7時：北里大学（青森県十和田市）

セミナートピック：

オーストラリア野生動物の現状と保護（ロックワラビー、ヒクイドリ、大コウモリなど）

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

11月20日（火）午後1時—午後3時：岡山理科大学（岡山県岡山市）

セミナートピック：

オーストラリア野生動物の現状と保護（ロックワラビー、ヒクイドリ、大コウモリなど）

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

オーストラリア野生動物保護トレーニングコース参加報告

11月21日（水）午後5時—午後7時：大阪府立大学（大阪府泉佐野市）

セミナートピック：

オーストラリア野生動物保護活動への参加

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

オーストラリア野生動物保護トレーニングコース参加報告

11月25日（日）午前11時—午後1時：可児産業展（岐阜県可児市）

セミナートピック：

オーストラリア クイーンズランド州の自然

オーストラリアの珍しい動物たちとその保護

ビデオ上映：アンダーウオーターワールド（オーストラリア）

AJWCEFスタッフ紹介

藤井一希



みなさんはじめまして。広報スタッフの藤井一希といたします。現在は獣医師免許取得のため東京農工大学で勉強中です。私のAJWCEFとの出会いは、大学の講義でした。トレーニングツアーの話聞いた私はなんとなく面白そうだなと思い“自分でもいけますか”と聞いたのが最初です。私はAJWCEFのトレーニングコースに参加するまで、海外に出たことは全くありませんでした。もちろん英語を喋るのも聞くのも受験勉強でした程度でした。多少の不安はありましたが、いってしまえばこっちのもの、人間経験が資本だと思いつ初の海外にサンダルで飛行機に乗ったことを覚えています。オーストラリアでの経験は私の価値観に大きく影響を与えてくれたと感じます。コアラなどの様々な固有種を身近で見て、学ぶことで得られる喜び、そして野生動物にかかわる様々な人の価値観・考え方に触れ、対話することは何物にも代えがたいものでした。オーストラリアのことだけでなく、オーストラリアを通し、日本においては世界を相対化できる視野を自らが持てるように、また多くの人に持ってもらえるように活動していけたらと思います。

樽澤優芽子

はじめまして。スタッフの樽澤優芽子です。現在、岐阜大学応用生物科学部に所属し、動物の生態などについて学んでいます。私は昨年、AJWCEFのトレーニングコースに参加しました。きっかけは動物についての知識をより深めたいと思ったからです。同時に、動物について“英語で”学ぶことによって、英語力も磨きたいと思っていました。実際にコースに参加すると、現場の方々によるレクチャーや実践的な実習を受けることができ、とても有意義な経験をすることができました。また、帰国後にブログで捕鯨問題についての記事を担当し、各国の主張の違いなどを知ることができました。これらの経験はいま私の目標設定につながっています。それは、世界中で様々な形で伝えられるニュースの本質を見抜くというものです。世界で実際に起こっている出来事とそれを伝える各国のニュース内容は異なると思います。これは、各国の文化や考え方の違いですから、その報道自体が正しい、間違っているということはないと思います。しかし、私が記事を担当することで、多くの方々に新たな視点にふれて頂く手助けが出来れば、うれしいです。学生の私の経験と知識でできることは限られているかもしれませんが、精いっぱい頑張っていきたいと思いますのでよろしくおねがいします。



会員 (個人・法人) 募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.orgで『参加・協力』のページにお進みください。

ニューズレター発行元
オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野哲男
編集担当 平野聡美

ホームページwww.ajwcef.org
住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話 +61 7 3374-3909 FAX +61 7 3374-3531